

福井藩の江戸上屋敷殿舎

ひろしき

大奥に係わる事務や会計、物資の調達、警備を担っていたのは、広敷の男性役人たちでした。

広敷には専用の門と玄関がありました。年寄や女使など上級の女中のための専用の簾簾が保管され、出入りもここから行われました。

このあたりにもうひとつの玄関「中の口」がありました。使者の要件によっては、また藩主の婦嬪もこちらが使われる場合もありました。

おもてむき

幕府の使者や親戚大名を迎える玄関、使者の間、年頭儀礼やお目見の際に使う小書院、用人・目付などの表向の諸役人の部屋がありました。

広敷は、広敷用人を筆頭に用達16名、添役24名、書役11名と事務方だけでも約50名、これ以外に外出する女中の警備を担う錠前番が40名ほどと大所帯でした（『福井藩史事典』）。

おおおく

正室、藩主家族（幼少の男子・姫）の生活空間。福井藩では、江戸中期以降、藩邸の奥向奥方を幕府と同様に「大奥」と呼んでいました。

齊承付女中 51名
謹姫付女中 9名
浅姫（御住居で別居）
付女中 58名（天保初年）
慶永付女中 45名（嘉永5年）

ござのま

一般に「中奥」と呼ばれることもある藩主の生活・執務空間。御座の間のほか、居間・休息の間、稽古所、能舞台、側向役人の部屋などがありました。



福井藩殿舎の表向・奥向イメージ図

■ ■ ■ は男性の空間。 ■ は女性の空間。
■ は奥向。 ■ は表向。
■ はお錠口。 ■ は「表御錠口」。